

会 務 月 報

第478号

発行 一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

■令和4年11月常任理事会 議事概要

1. 日時 令和4年11月24日（木）13:30～15:30

2. 場所 日事連会議室

3. 常任理事会構成者総数、定足数及び出席者数

常任理事会構成者総数14名、定足数8名、出席者数13名

4. 出席者及び欠席者の氏名

出席者

会 長 児玉耕二

副 会 長 岩本茂美、白井 勇、木下賀之、上野浩也、
井手添誠、原 行雄

専務理事 居谷献弥

常任理事 村田良太、石井繁紀、樋上雅博、矢野敏明、
内田 要

事 務 局 千浜、伊東、野出、三浦

欠席者

常任理事 相原清安

5. 議 長

児玉耕二会長より議長について諮り、岩本茂美副会長を議長に選任した。

6. 議事録署名人

児玉耕二会長、岩本茂美副会長

7. 専決事項

(1) 12月14日全国会長会議及び創立60周年記念式典等のスケジュール等について

居谷専務理事より、資料1及び資料1-2によって全国会長会議及び創立60周年記念式典等について説明がな

され、議長より全国会長会議の議事及び記念式典の運営等について諮ったところ、異議なく資料1及び資料1-2のとおり実施することとした。

(2) 創立記念表彰について

居谷専務理事より、資料2によって次の趣旨の説明がなされた。

単位会事務局職員永年勤続表彰について単位会より推薦のあった43名を表彰することとしたい。表彰については創立60周年記念式典において代表者1名を表彰することとし、それ以外の表彰者については、表彰状等を単位会事務局へ送付することとする。

議長より創立記念表彰について諮ったところ、異議なく資料2のとおり決定した。

8. 協議事項

(1) 令和4年度上半期事業報告及び決算報告について

居谷専務理事より、資料3-1及び資料3-2によって令和4年度上半期事業報告及び決算報告について説明がなされ、議長より諮ったところ、異議なく資料3-1及び資料3-2のとおり理事会に提案することを決めた。

(2) 岐阜会への日事連サービスの株式譲渡について

居谷専務理事より、資料4によって岐阜会への日事連サービスの株式譲渡について説明がなされ、議長より諮ったところ、異議なく資料4のとおり理事会に提案することを決めた。

(3) 令和5年度日事連建築賞の募集について

石井広報・渉外委員長より、資料5によって令和5年度日事連建築賞の募集について説明がなされ、議長より諮ったところ、異議なく資料5のとおり理事会に提案することを決めた。

(4) 熊本大会の事業報告・収支報告について

岩本熊本大会運営特別委員会委員長及び事務局より、資料6-1、資料6-2及び参考によって、第44回建築士事務所全国大会（熊本大会）及び青年話創会2022熊本大会の実施状況について説明がなされ、議長より諮った

ところ、異議なく資料6-1及び6-2のとおり理事会に提案することを決めた。

(5) 鳥取・島根大会運営特別委員会の設置について

居谷専務理事より、資料7によって鳥取・島根大会運営特別委員会の設置について次の趣旨の説明がなされた。

第45回建築士事務所全国大会（鳥取・島根大会）の企画・立案・運営等の検討のため、委員長に日事連副会長の井手添鳥取会会長、副委員長に矢野島根会会長ほか5名の委員からなる鳥取・島根大会運営特別委員会を設置したい。

議長より鳥取・島根大会運営特別委員会の設置について諮ったところ、異議なく資料7のとおり理事会に提案することを決めた。

(6) 12月通常理事会の議題等について

居谷専務理事より、資料8によって12月通常理事会の議題等について説明がなされ、議長より諮ったところ、異議なく資料8のとおり決定した。

9. 懇談事項

(1) 適合証明業務登録制度に係る収支等の見直しについて

居谷専務理事より、資料9によって適合証明業務登録制度に係る収支の見直しについて次の趣旨の説明がなされた。

適合証明業務登録制度に係る収支の改善を図るため、今後の安定的な制度の維持に向けて、令和5年度より登録料、受講料等の見直しを検討している。現在、日事連の業務・技術委員会で協議を行っているが、その参考とすべく単位会の意見も聴取しているところである。

以下の発言がなされた。

白井副会長—これから減少することを想定した数字ははじけるだろうが、方策を考える必要がある。どういう原因によるものか等分析が必要である。

岩本副会長—先々の議論を丁寧に行う必要がある。赤字を垂れ流し続けることは許されない。

上野副会長—3年スパンでの収支で考える。単位会の利益ありきでは成り立たない。日事連が運営したらどうかも検討した上で、単位会の利益も考える。

居谷専務理事—現状、単位会損益としては多寡の差はあるもののプラスの筈である。

白井副会長—単位会にとって重要な収入源である。建賠保険の日事連と単位会の按分率の見直しも課題の一つと考えている。

岩本副会長—大いに議論する場が必要である。

居谷専務理事—改善案については、タイミング的には令和5年度の予算編成前で、改善案は複数必要である。業務・技術委員会で先行して検討していることもあり、正副会長に加え業務・技術委員会及び総務・財務委員会の委員長にもご参加いただき、12月14日の全国会長会議の前に打合せを行うこととしたい。

10. 報告事項

(1) 転嫁円滑化施策パッケージに基づく自主点検について

居谷専務理事より、資料10によって、「パートナーシップにより価値創造のための転嫁円滑化施策パッケージ」の実施に向けた法遵守状況の自主点検について報告がなされた。

(2) 会員サービス検討WGの委員について

居谷専務理事より、資料11によって、会員サービスWGにおいては更なる議論の充実図るため、新たに4名の委員を追加する旨の説明がなされた。

(3) 業務報酬基準の改正に向けた検討状況について

居谷専務理事より、資料12によって業務報酬基準の改正に向けた検討状況について報告がなされた。

(4) 当面の主な会議予定

事務局より、資料13によって当面の主な会議予定について説明がなされた。

(5) 会員・構成員異動報告

事務局より、資料14によって令和4年10月の単位会別構成員数及び賠償責任保険加入者数等の報告がなされた。

(6) 後援名義等使用の催物について

事務局より、資料15によって講演名義等使用の催物について報告がなされた。

(7) 経過報告について

事務局より、資料16によって経過報告がなされた。

<配付資料>

資料1：創立60周年記念式典の運営等について（案）

資料1-2：第138回建築士事務所協会全国会長会議の議事等について

資料2：創立記念表彰者について

資料3-1：令和4年度上半期事業報告書

資料3-2：令和4年度上半期決算報告書

資料4：岐阜会への日事連サービスの株式譲渡について

資料5：令和5年度日事連建築賞の募集について

資料6-1：第44回建築士事務所全国大会（熊本大会）実施報告書（案）

資料6-2：青年話創会2022熊本大会実施報告書（案）

参考：令和3年度熊本大会中止に伴う精算明細

資料7：鳥取・島根大会運営特別委員会の設置について

資料8：令和4年12月通常理事会 招集通知

資料9：適合証明業務登録制度に係る収支改善提案についてのご意見提出のお願いについて

資料10：「パートナーシップによる価値創造のための転嫁円滑化施策パッケージ」の実施に向けた法遵守状況の自主点検について（要請）

資料11：会員サービス検討ワーキンググループの委員追加について

資料12：今後の検討委員会の進め方（案）

資料13：当面の主な会議予定

資料14：会員・構成員異動報告等

資料15：後援・協賛名義使用の件

資料16：経過報告

■令和4年12月通常理事会 議事概要

1. 日時 令和4年12月1日（木）14:10～15:40
2. 場所 日事連会議室
3. 理事会構成員総数、定足数及び出席者数
理事会構成員総数35名、定足数18名、出席者数32名
4. 出席者及び欠席者の氏名

出席者

会 長 児玉耕二

副 会 長 岩本茂美、白井 勇、木下賀之、上野浩也
原 行雄

専務理事 居谷献弥

常任理事 石井繁紀、相原清安、樋上雅博、矢野敏明

理 事 安藤春久、安藤正道、石崎和志、伊藤公績
井上 泉、大村 修、小倉 凡、加藤 彰、
川元 茂、佐々木宏幸、佐藤啓智、佐野吉彦、
柴田淳一郎、須田正美、瀧本裕之、
千鳥義典、富樫 亮、仲摩和雄、林田康孝、
本澤 崇、本間裕之

監 事 高橋清秋、林 貞義

事 務 局 前田、千浜、伊東、野出、三浦、吉田

欠席者

井手添誠副会長、村田良太常任理事、内田要常任理事

5. 議 事

（1）議長の選任

児玉耕二会長が議長に選任された。

（2）議事録署名人の確認

定款第45条第2項の規定により、議事録署名人は以下の者であることが確認された。

児玉耕二会長、高橋清秋監事、林貞義監事

（3）議決事項

- 1) 常任理事会専決事項の承認の件

①令和4年度日事連建築賞の受賞者決定の件

事務局より、日事連建築賞選考委員会での選考経過及び常任理事会で資料1のとおり受賞者を決定した旨説明がなされた。

②令和5年度全国大会の開催地、日程及び名称等決定の件

事務局より資料2によって、令和5年度の全国大会について次のとおり説明がなされた。

- ・鳥取会及び島根会を共管とし、鳥取県米子市で開催
- ・大会名称 第45回建築士事務所全国大会（鳥取・島根大会）
- ・開催日 令和5年10月13日（金）
- ・大会式典会場 米子コンベンションセンター（ビッグシップ）
- ・記念パーティ会場 ANAクラウンプラザホテル米子

③業務・技術委員会の委員変更決定の件

東海北陸ブロック協議会推薦の業務・技術委員会委員について、同ブロック協議会の要請により、加藤雅丈氏から尾関和彦氏に変更する旨、資料3によって事務局より説明がなされた。

④12月14日全国会長会議及び創立60周年記念式典等のスケジュール等の決定の件

事務局より資料4によって、12月14日の全国会長会議及び創立60周年記念式典等の行事、スケジュール、議事内容及び参加人数について説明がなされた。

⑤創立記念表彰の決定の件

事務局より資料5によって、単位会事務局職員永年勤続表彰者及び表彰について説明がなされた。

以上の常任理事会で決定した事項について議長より諮ったところ、異議なく、これを承認した。

2) 令和4年度上半期事業報告及び決算報告の承認の件

居谷専務理事及び各常置委員会委員長より、資料6-1によって令和4年度上半期事業報告である会議、事業概要、総務・財務、教育・情報、業務・技術、広報・渉

外、指導運営、建築士事務所全国大会、創立60周年記念事業、法制度対応、青年部会、住宅金融支援機構適合証明業務及び会員動静等に関するそれぞれの事業報告の内容の説明がなされた。

なお、この報告は一般社団・財団法人法第91条第2項、定款第26条第8項に規定する理事の職務の執行状況報告を兼ねるものである旨、事務局より説明がなされた。

続いて、居谷専務理事より、資料6-2によって一般会計及び適合証明業務登録機関特別会計の令和4年度上半期決算報告について説明がなされた。

議長より、上半期事業報告及び決算報告の承認について諮ったところ、資料6-1及び資料6-2のとおり承認した。

3) 岐阜会への日事連サービスの株式譲渡の承認の件

樋上総務・財務委員長より、資料7によって次の趣旨の説明がなされた。

日事連サービスの発行株式総数60株のうち、各単位会が1株保有し、残りの14株を日事連が保有している。

6月に再入会した岐阜会に、日事連が保有する株式1株を額面の5万円で譲渡したい。

議長より、岐阜会への日事連サービスの株式譲渡について諮ったところ、異議なく、これを承認した。

4) 令和5年度日事連建築賞の募集の承認の件

石井広報・渉外委員長より、資料8によって次の趣旨の説明がなされた。

令和5年度の募集要項については、例年の必須変更項目、事務的変更及び委員3名（委員長1名を含む）を変更することとした。

議長より、令和5年度日事連建築賞の募集要項及び実施スケジュールについて諮ったところ、異議なく、これを承認した。

5) 熊本大会の実施結果の承認の件

岩本熊本大会運営特別委員長及び事務局より、資料9-1及び資料9-2によって次の趣旨の説明がなされた。

9月30日に大会式典及び記念パーティ、9月29日に青年話創会を実施した。参加人数は、大会式典1,142名、記念パーティ407名及び青年話創会152名であった。決算額は、大会式典及び記念パーティで3,341万円余、青年話創会で171万円余であった。青年話創会の実施経費は、オブザーバー参加費を除き全額日事連が負担する。

議長より、熊本大会の実施結果について諮ったところ、異議なく、これを承認した。

6) 鳥取・島根大会運営特別委員会の設置の承認の件

事務局より、資料10によって次の趣旨の説明がなされた。

令和5年度の第45回建築士事務所全国大会（鳥取・島根大会）の実施に向けた企画・立案等のために特別委員会を設置したい。鳥取会及び島根会には青年部会等が設置されていないため、青年話創会の実施に備え、青年部会連絡会議の村田正道委員（広島会）を加えた案としている。

議長より、鳥取・島根大会運営特別委員会の設置について諮ったところ、異議なく、これを承認した。

(4) 報告事項

1) 転嫁円滑化施策パッケージに基づく自主点検について

居谷専務理事より、資料11-1及び資料11-2によって次の趣旨の説明がなされた。

国土交通省等より、パートナーシップによる価値創造のための転嫁円滑化施策パッケージに基づく自主点検を、会員に対し行うよう要請があった。これは、中小企業等が労務費・原材料費・エネルギーコストの上昇分を適切に転嫁できるようにし賃金引上げの環境を整備するため、国が同パッケージを取りまとめ進めているところだが、下請法違反行為が多く認められる業種として、建

築設計業が含まれる技術サービス業が自主点検の対象とされたためである。この要請を受け、単位会を通じて構成員にアンケートを実施した。アンケートの対象は、下請法の対象となる資本金1,000万円超の事業所で、313社より回答を得た。アンケート結果を見ると、業界内・異業種間の取引ともに、取引価格における労務費、原材料費及びエネルギーコストの上昇分の価格転嫁は概ね対応されている。

2) 改正建築物省エネ法・建築基準法の円滑施行に関する連絡会議について

居谷専務理事より、資料12によって次の趣旨の説明がなされた。

本年6月に公布された改正建築物省エネ法・建築基準法の円滑な施行に向けて、設計者や施行者、審査者、発注者等が適切に対応できるよう関係者が連携し、実行性のある周知活動を展開するため、情報共有や意見交換等を目的とした連絡会議を設置し、11月に1回目の会議を開催した。令和4年9月1日に住宅の省エネ改修に対する住宅金融支援機構による低利融資制度が施行されたが、交付日から1年以内に住宅トップランナー制度の拡充、省エネ改修に支障となる採光規制等の合理化及び省エネ改修や再エネ設備の導入に支障となる高さ制限等の合理化等が施行される予定である。

3) マロニエBIMコンペティション2022inみやぎ実施結果について

居谷専務理事より、資料13によって次の趣旨の説明がなされた。

このコンペティションは、平成26年に栃木会により建築を学ぶ学生を対象にBIM技能の向上を目指して開始され、令和元年には対象を一般の社会人にも広げ、日事連との共催となり全国にそのフィールドを広げてきた。今回は宮城会が担当となり、「青葉山公園に杜の都のスポーツ文化を象徴するデザインの提案」をテーマに仙台市の歴史的文化をはぐくんできた青葉山公園を課題

敷地とした。11月26日に最終公開審査を実施し、受賞作品を決定した。今回から国土交通大臣賞が設けられた。来年度は大阪会が担当する予定である。

以下の発言がなされた。

高橋監事（宮城会会長）一皆様の協力により充実したものを実施することができた。今後もこの事業を続けてほしい。

佐野理事—スポーツ文化をテーマにしたのは面白い。

4) 会員サービス検討WG等の委員について

事務局より、資料14によって次の趣旨の説明がなされた。

前回の理事会で調整中としていた専門委員会等委員は、資料14のと通りの3名となった。また、会員サービス検討WGについては、さらなる議論の充実を図るため、同WGの要請により日事連サービスの辻専務取締役等4名を追加したい。

5) 業務報酬基準の改正に向けた検討状況について

居谷専務理事より、資料15によって次の趣旨の説明がなされた。

11月の第8回検討委員会から略算表の検討が開始された。来年3月には中央建築士審査会を開き、業務報酬基準の方向性と告示改正案の審議がなされる予定である。事務所の実態調査の回収率は、前回46.1%に対し、30%にとどまった。

佐々木理事より、今後5年周期で改正されるなら、アンケートの回答率を高めるような方策を考えないといけないとの発言がなされた。

6) 当面の主な会議予定

事務局より資料16によって、令和5年6月迄の主な会議予定の報告がなされた。

7) 会員・構成員異動報告

事務局より資料17によって、令和4年7月から10月の単位会別構成員数及び賠償責任保険加入者数等の報告がなされた。

8) その他

白井記念式典分科会主査より、以下の発言がなされた。

12月14日の60周年記念式典は参加人数を絞って実施するが、単位会事務局でWeb視聴していただければと思う。なお、シンポジウムの内容等については、記念誌にも掲載し、後日構成員等に配布する。

<配付資料>

資料1：令和4年度日事連建築賞の受賞者決定について

資料2：令和5年度全国大会の開催地、日程及び名称等について

資料3：業務・技術委員会委員変更届

資料4：創立60周年記念式典の運営等について

資料5：創立記念表彰者について

資料6-1：令和4年度上半期事業報告書

資料6-2：令和4年度上半期決算報告書

資料7：岐阜会への日事連サービスの株式譲渡について

資料8：令和5年度日事連建築賞の募集について

資料9-1：第44回建築士事務所全国大会（熊本大会）実施報告書（案）

資料9-2：青年話創会2022熊本大会実施報告書（案）

資料10：鳥取・島根大会運営特別委員会の設置について

資料11-1：「パートナーシップによる価値創造のための転嫁円滑化施策パッケージ」の実施に向けた法遵守状況の自主点検について（要請）他

資料11-2：下請法 法遵守状況の自主点検アンケート結果

資料12：改正建築物省エネ法・建築基準法の円滑施行に関する連絡会議について

資料13：マロニエBIMコンペティション2022inみやぎ公開審査会報告書

資料14：令和4・5年度専門委員会等委員について

資料15：今後の検討委員会の進め方（案）

資料16：当面の主な会議予定

資料17：会員・構成員異動報告等

■第138回建築士事務所協会全国会長会議議事概要

1. 日時 令和4年12月14日(水) 13:00～14:10

2. 場所 東京都中央区銀座6-14-10

銀座東武ホテル2階「桜」

3. 会議の構成者数及び出席者数

構成者数 単位会会長47名

出席者数 46名

4. 出席者の氏名

正会員

北海道会 庄司雅美、青森会 加藤 彰、
岩手会 佐々木 章、宮城会 高橋清秋、
秋田会 村田良太、山形会 原 行雄、
福島会 安藤正道、茨城会 舟幡 健、
栃木会 佐々木 宏幸、群馬会 石井繁紀、
埼玉会 佐藤啓智、千葉会 須田正美、
東京会 児玉耕二、神奈川会 白井 勇、
新潟会 本間裕之、長野会 土屋長命、
山梨会 初鹿和久、富山会 稲葉伸一、
石川会 小林正澄、福井会 木下賀之、
岐阜会 荒井誠二、静岡県 金丸智昭、
愛知会 安藤春久、三重会 相原清安、
滋賀会 大村 修、京都会 上野浩也、
大阪会 樋上雅博、兵庫会 柏本 保、
和歌山会 尾添信行、鳥取会 井手添 誠、
島根会 矢野敏明、岡山会 丸川 眞太郎、
広島会 豊田隆雄、山口会 小倉 凡
徳島会 立花 薫、香川会 鉄川裕崇、
愛媛会 林 貞義、高知会 田中健一、
福岡会 岩本茂美、佐賀会 福島安信、
長崎会 木場耕志、熊本会 南 孝雄、
大分会 仲摩和雄、宮崎会 村社俊弘、
鹿児島会 八反田 淳一、沖縄会 武岡光明

役員

専務理事 居谷 献弥

理事 伊藤公績、井上 泉、佐野吉彦、

柴田淳一郎、千鳥義典、本澤 崇

事務局 前田、千浜、伊東、野出、三浦

5. 欠席者の氏名

正会員・奈良会 阪口 龍平

6. 挨拶

児玉耕二会長より、以下の趣旨の挨拶があった。

- ・6月に改正省エネ法が国会を通過し、11月には国土交通省が関係団体と連携し、「改正建築物省エネ法・建築基準法の円滑施行に関する連絡会議」を設置し、情報共有や意見交換等を行った。
- ・「2050年カーボンニュートラル」に向けた対応は、かなりハードルが高いものであるが、日事連としても省エネの普及促進に積極的に取り組んでいく必要があり、法改正や制度の変化は業務の変化にも繋がる。また見方によってはビジネスチャンスにも結びつくものであり、こうしたグリーン化の推進には積極的な協力をお願いしたい。

7. 来賓挨拶

国土交通省石坂聡大臣官房審議官より、以下の趣旨の挨拶があった。

- ・「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて、建築物の省エネ化及び木材利用の促進を図り、円滑な施行に向けた支援、協力をお願いしたい。
- ・業務報酬基準の見直し等の検討を進めている。今後の設計業務等の新しいやり方を含め、皆様方からの意見を伺いながら着実に進めてまいりたい。

8. 議長・副議長の選任

司会者より、議長及び副議長の選任について諮ったところ、議長に岩本茂美福岡会会長が、副議長に白井勇神奈川会会長が選任された。

9. 議事録署名人の選任

議長より、議事録署名人の選任について諮ったところ、議長に一任され、岩本茂美議長、児玉耕二東京会会長及び木下賀之福井会会長を議事録署名人に選任した。

10. 報告事項等

(1) 令和4年度上半期事業報告及び決算報告について

居谷専務理事より、資料1-1・1-2によって、令和4年度上半期事業報告並びに一般会計及び適合証明業務登録機関特別会計の令和4年度上半期決算報告についての概要及び次の説明がなされた。

一般会計では、会議開催形態が対面からWebへシフトしたこと等により支出執行が予定より減少した。

(2) 令和5年度単位会組織強化支援事業について

樋上総務・財務委員長より、資料2によって、令和5年度単位会組織強化支援事業の実施要領(案)について概要説明がなされた。基本的に令和5年度は4年度を踏襲した内容で実施することとしている。

11. 各ブロック協議会代表者より発言

各ブロック協議会代表者より、カーボンニュートラル・BIMその他建築DX化への取り組み等について以下の趣旨の発言がなされた。

北海道東北 庄司雅美北海道会会長

- ・カーボンニュートラルの取り組みとして、北海道では国の施策に基づいて令和3年3月に、「北海道地球温暖化対策推進計画(第3次)」を策定し、「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取り組みを開始した。
- ・木造化を含めた脱炭素化に向けた基本方針の策定に入っており、「D・ゼロカーボン建築サポートセンター」を設置し、各市町村及び民間事業者に対し、相談サポートする支援作りを行っている。
- ・建築DX化の取り組みは、道内設計事務所では、導入がなかなか進んでいない状況である。

関東甲信越 佐藤啓智埼玉会会長

- ・BIM導入促進に向け、メーカーと協力したオンライン講習や、BIMを体験できる講習会等を開催している他、実際にBIMを活用している事務所と情報交換し、会員が無理なくBIMを導入できる方法等について調査研究を行っている。

東海北陸 安藤春久愛知会会長

- ・大規模事務所のBIMの導入は多いが、単位会会員は小規模な事務所が多く、まだBIMの導入率は低く、導入費用が負担となる。導入にあたっての補助制度ができないかという意見も出ている。

近畿 大村修滋賀会会長

- ・BIM設計コンペティションが行われているが、素晴らしい企画である。BIM普及に向けた関連イベントにかかわる等、できることを考えて取り組んでいったらよいのではないかと。

中国 鉄川裕崇香川会会長

- ・カーボンニュートラルの取り組みについては、関連の協議会や木材利用促進会議への参加や広報活動等を行っている。
- ・省エネ関連の研修会、講演会または相談会を開催し、会員や建築主に断熱の基準や方法、一次エネルギーの内容について説明し、周知に取り組んでいる。
- ・BIMの活用促進についての検討やソフト会社を招いて講演会を開催しているが、コロナの影響もあり、参加人数が少ないのが現状である。

九州・沖縄 南孝雄熊本会会長

- ・BIMの活用が進んでいる福岡会にリードしてもらい、ブロック内では積極的な普及活動を行っている。
- ・建築DXは、導入方法等について行政等から情報を取り入れているところである。

<配付資料>

資料1-1：令和4年度上半期事業報告書

資料1-2：令和4年度上半期決算報告書

資料2：令和5年度単位会組織強化支援事業実施要領(案)

■第1回総務・財務委員会議 議事概要

日時 令和4年11月16日(水) 15:00~18:05

場所 日事連会議室

出席者 委員長 樋上雅博

委 員 馬場雄司、本間裕之、鈴木保二、中谷芳一、
福山雅也、西 洋一

副会長 白井 勇

建築士事務所企業年金基金 理事長 佐々木宏幸

常務理事 横山 守

事務局 居谷、前田、伊東、三浦、松谷、中村

1. 建築士事務所企業年金基金について

建築士事務所企業年金基金横山常務理事より、資料1によって、基金の制度及び最近の状況について説明がなされ、基金の財政状況は安定しているものの、加入事業所及び加入者数が伸び悩んでいるため、継続して加入促進に協力してほしいとの依頼があった。

同佐々木理事長より、基金の加入は退職金制度の充実を図るための有効な手段であるとの補足説明がなされた。

樋上委員長より、大阪府の加入事業所数が0であることについて質問がなされ、横山常務理事より、当基金が立ち上がる前に大阪府に同業の基金があったため、大阪府での加入者募集ができなかった。大阪府で加入者募集するには、大阪会等の許可が必要となるとの回答があった。

白井副会長より、内容は非常に良くなった。会員サービスの一環として、基金をアピールできるのではないかと発言があった。

2. 総務・財務委員会の分担事項及び令和4年度事業計画等について

事務局より、資料2によって、総務・財務委員会の分担事項及び令和4年度事業計画等について説明がなされた。

今回は初回のため基本的に対面開催としたが、2回目以降はWebを主体に開催する。

3. 本委員会及び傘下のWG等のこれまでの取り組みについて

事務局より、資料3によって、本委員会及び傘下のWG等のこれまでの取り組みについて説明がなされた。

白井副会長より、WGの取り組みの詳細や、会員サービス検討WG及び事務所登録電子化対応WGの発足の経緯について説明がなされた。

樋上委員長より、本委員会にて実施している単位会組織強化支援事業をはじめ、全国展開できる会員サービスの充実を図るため、傘下にWGを発足させたとの補足説明がなされた。

4. 会員サービス検討WGの委員追加について

事務局より、資料4によって、会員サービス検討WGの委員追加について説明がなされた。

白井副会長より、更なる議論の充実を図る第一段階として、委員4名を追加したい。また、他に会員サービス検討等に興味のある方がいれば紹介してほしいとの発言がなされた。

協議の結果、原案のとおり常任理事会に報告することとした。

5. 令和4年度上半期事業報告及び決算報告について

事務局より、資料5-1及び資料5-2によって、令和4年度上半期事業報告及び決算についての概要の他、次の趣旨の説明がなされた。

今年度は6月の総会にて岐阜会の再入会が承認された。また、9月には3年振りとなる全国大会を熊本にて開催した。

白井副会長より、神奈川会の会員増強の取り組みに関する情報提供がなされた。

樋上委員長より、いかに財政基盤を整えて会員を増やすかが課題であり、各単位会も努力しているがなかなか骨が折れることであるとの発言があった。

協議の結果、原案のとおり常任理事会に提案することとした。

6. 12月14日全国会長会議及び創立60周年記念式典等のスケジュール等について

事務局より、資料6によって、12月14日の全国会長会議及び創立60周年記念式典等のスケジュール等について、説明がなされた。

シンポジウムのWeb視聴配信の公開範囲等について意見交換がなされた。

協議の結果、実施要領案の内容等について、原案のとおり常任理事会に提案することとし、録画した動画の配信等については、実施後に判断することとした。

7. 令和5年度における助成金・負担金・支援金等について

樋上委員長より、資料7によって、令和5年度における助成

金・負担金・支援金等について、次の通り説明がなされた。

令和5年度は、継続事業については従来通りの金額を予算計上し、令和6年度からの金額等については5年度に検討したい。出席者より次の意見があった。

- ・キャンペーン助成金は広報・渉外委員会にて継続の方針を決定した。総務・財務委員会でも継続の方針でよいと思う。
- ・ブロック助成金については、各ブロック協議会では日事連からの助成金支給を前提に予算を組んでいる。しかしながら、各ブロック協議会がこの助成金をどう活用しているのか把握できていない。各ブロック協議会に事業計画やブロック助成金の使用目的を提出してもらうのはどうか。今後、金額等の見直しも必要であると思われる。
- ・全国大会日事連負担金については、来年度からは1,200万円に変更する方針である。大会主管会にとって財政的に厳しいかもしれないが、できるだけコンパクトに実施する等工夫していただきたい。日事連にとっても毎年1,200万円を継続して支出するのは大きな負担である。
- ・予算全体で見たら、収支差額がマイナス5,000万円となっている。これは今年だけの問題でなく、毎年の積み重ねによって生じたものである。助成金・負担金・支援金といった支出は、今年度だけでなく、毎年掛かる経費である。どこかで帳尻を合わせて、助成金を縮小していけたらよい。
- ・昨年度の定時総会で承認された基本会費の変更によって、日事連の会費収入は減少した。
- ・業務・技術委員会で検討されている適合証明業務や既存住宅状況調査技術者講習の受講料引き上げについては、受講者減少を加速させる可能性があるため、慎重に対応した方がよい。
- ・単位会には、日事連の財政状況はかなり厳しいと理解いただいた上で、対策を講じたい。

8. 令和5年度単位会組織強化支援事業について

事務局より、資料8によって、令和5年度単位会組織強化支援事業についての説明がなされた。

樋上委員長より、実施要領案の詳細説明がなされ、基本的に令和5年度は4年度を踏襲した内容で実施し、3年間の申請状況等を踏まえ、令和6年度以降は更に練った内容で進めたいとの提案がなされた。

白井副会長より、令和4年度から「委託費及び外注費については総事業費の3割程度以内を目安とすること」が新たな要件となった経緯について、次のとおり説明がなされた。

ホームページの更新は「単位会の組織強化や支援」につながるか疑問に思う。もしホームページを大幅にリニューアルした場合、メンテナンスにかかる労力や費用といった単位会の負担も大きくなるのが懸念される。これまで2回支援事業の審査を実施したが、委員全員が業者に丸投げしたような申請内容をあまり評価していない。ホームページリニューアル費用が「総事業費の3割程度」というのは、妥当なラインと考える。

また、講師料や謝金については、審査時に適切な額と判断できる資料の提示があるか確認し、判断する。

中四国ブロック協議会からの要望については、参考事例を提示する等により対応したい。

9. 熊本大会実施結果及び今後の全国大会の実施内容・経費削減等について

事務局より、資料9-1及び資料9-2により、熊本大会実施結果及び今後の全国大会の実施内容・経費削減等について説明がなされた。

樋上委員長より、次のとおり説明がなされた。

熊本大会は非常に盛んで、熊本会は大変積極的に運営されていた。しかし、今後全国大会を継続して実施していくには日事連の財政が非常に厳しいため、来年度以降は日事連の全国大会負担金を1,200万円に引き下げる。今後の大会実施については、主管会は以前の東京開催を参考にしながら、シンプルでコンパクトな大会を目指して尽力いただきたい。

事務局より大会の内容や実施方法等について、今後意見を提出してほしいとの依頼があった。

10. 岐阜会への日事連サービスの株式譲渡について

事務局より、資料10により、岐阜会への日事連サービス

の株式譲渡について、説明がなされた。

協議の結果、原案のとおり常任理事会に提案することとした。

11. 転嫁円滑化施策パッケージに基づく自主点検について

事務局より、資料11により、転嫁円滑化施策パッケージに基づく自主点検について、説明がなされた。

建築設計業が含まれるサービス業は、法順守状況の自主点検の対象となる業種に該当することから、関係団体における自主点検の要請があり、資本金1千万円超の事務所を対象に自主点検を実施し、回答を取りまとめた。国土交通省からは、概ね転嫁はなされているとのコメントがあった。

次回以降開催予定

令和5年2月22日（火）13:30～16:00

5月24日（火）13:30～16:00

配布資料

総務・財務委員会 名簿

資料1:「建築士事務所企業年金基金」について（報告）

資料2:総務・財務委員会の分担事項及び令和4年度事業計画等について

資料3:本委員会及び傘下のWG等のこれまでの取り組みについて

資料4:会員サービス検討WGの委員追加について

資料5-1:令和4年度上半期事業報告書

資料5-2:令和4年度上半期決算報告書

資料6:創立60周年記念式典の運営等について（案）

資料7:令和5年度予算作成に向けた助成金等について

資料8:令和5年度 単位会組織強化支援事業スケジュール(案)

参考:建築士事務所向 HPサイト構築について(概算見積もり)

資料9-1:第44回建築士事務所全国大会（熊本大会）実施報告書（案）

資料9-2: 青年話創会2022熊本大会 実施報告書（案）

資料10:岐阜会への日事連サービスの株式譲渡について

資料11:転嫁円滑化施策パッケージに基づく自主点検について

■第2回 業務・技術委員会 議事概要

日時 令和4年12月12日（月）14:00～15:20

場所 日事連会議室

出席者 委員長 内田 要

副委員長 相原清安

委員 村上 学、河野正博、尾関和彦、吉居龍治、山城新吾

担当副会長 木下賀之

欠席者 委員 内野輝明

事務局 居谷、前田、千浜、野出、岡本、吉田

配付資料

第1回業務・技術委員会議事概要

資料1:住宅金融支援機構 適合証明業務登録制度の収支の見直しについて

資料2:単位会からの意見

参考:収支見直し後の費用一覧

議 事

1. 適合証明業務登録制度の収支の改善について

○資料1、資料2により単位会への意見照会の内容および単位会から寄せられた意見について事務局より説明された。

おもな内容は以下の通り。

- ・第1回業務・技術委員会での資料と変更した内容は、直近5年間の登録者数の推移を従来制度と新制度に分けてわかりやすくしたこと、登録料の委託配分比を従来通りとしたこと。
- ・単位会からの主な意見は、登録料・受講料の値上げは受講者減につながる、制度の見直しが必要、オンライン講習の委託配分比の変更には反対など。

【意見交換内容】

○以上の単位会からの意見を受けて、意見交換を行った。おもな意見は次の通り。

- ・値上げをするかどうか解決策はむずかしい。制度の目的を明らかにする必要あり。制度のあり方に踏み込まざるをえない。
- ・3年後に赤字になるので黒字になるような変更は必要。制

度を活用できるような仕組みが必要。今の状況では更新者が徐々に減っていく。

- ・値上げは必要だが、登録者が減少傾向にあるのでそここの対策は必要。さらに継続するのであるならばオンライン講習のみで動くとは成立するのでは。
- ・講習を受けるが業務がない。業務があれば登録の費用はまかなえる。既存住宅状況調査技術者講習と同日講習を行っている。この資格によって建築士事務所の業が行えることがあればよい。値上げや単位会との委託配分比の検討だけでなく前向きの議論を行いたい。事務所協会だけでなく関連団体との連携で業務を増やしてほしい。
- ・この制度のメリットがないように感じる。値上げは運営上仕方ない。次回上げずにすむのか。悪循環となることを懸念。全部オンラインにすればどうか。どれくらいの経費がかかってどうなるか。
- ・値上げは致し方ない。オンラインの配分は単位会としては配分比を多くほしいところである。既存住宅状況調査技術者との組み合わせはいいかという意見もあった。現在、既存住宅状況調査専門委員会の委員長をしているが、既存も資格を得ても活用場がない。活用する場を委員会でみつける案を1～2年かけて構築しようとしている。講習の受講については、会場講習の方が単位会としては収入が見込める。総合的に単位会の収入が増えるような方向にすべきではないか。
- ・業務・技術委員会の使命としては、1月に決定しなければいけない。委員会としての意見をまとめなければいけない。値上げをするかしないか。

【どのような方針とすべきか】

○業務・技術委員会としての方針をどのようにするかについて、さらに意見交換を行った。

主な意見は次の通り。

- ・今の制度の維持を前提とするならば値上げは必要
- ・連合会としてこの事業を続けていくためには値上げは必要。今後どうしていくかの問題はあ

- ・値上げは必要だと思う。値上げしてどのような委託配分とするか議論を進めるべき。
- ・第1回の業務・技術委員会で提示され、単位会へのアンケートを経た。1月には決めなければいけないのは、拙速に感じる。値上げはやむなしであるが、委託配分は事務局で考えてほしい。次年度には資格に対する業務をどのようにしていくかの協議を継続する。
- ・基本的には値上げに異論はない。継続的に議論して今後どうすればいいかを検討するべき。
- ・値上げはやむなしであるが、登録者は減る。減らないような考慮が必要。日事連と単位会の経費節減が必要。オンラインの配分については日事連の業務が多いので仕方ないか。調査や分析は時間が1年あっても足りない。
- ・値上げやむなし。値上げ後の内容については協議が必要。今後についてはどう考えるか。

【オンライン講習の委託配分比について】

○オンライン講習の委託配分比についてさらに意見交換を行った。

主な意見は以下の通り。

- ・単位会の委託料は現行通りとしてほしい。オンラインは5:5がよいかと思うが意見としては現行通り。
- ・4:6と逆転することはインパクトがある。5:5で収支がどうなるか。
- ・オンラインの配分比率は見直していただきたい。4:6にすることについては否定的な声が大きかった。
- ・5:5でとりあえず行ったらどうか。値上げと配分比率を変えた場合にどうなるか。480万円が少し下がるくらいか。5:5とした場合にどうなるか。

【方向性】

○以上の議論により、業務・技術委員会としては次のような方針とすることとした。

- ・登録料、受講料の値上げはやむなし。
- ・オンライン講習の単位会の委託配分は、5:5を進める。会場講習は、0.82:0.18。

- ・日事連、単位会ともに経費の節減に努める。
 - ・時間をかけて制度的にどうすべきかの議論を進める。
- 以上の検討により値上げ、オンラインの委託配分比を5:5にした場合の収支案を精査のうえ、次回の委員会で決定することとした。
- 次回日程（予定）
- 第3回：令和5年1月13日（金）14:00～16:00

■第2回景観・まちづくり専門委員会 議事概要

日 時 令和4年11月18日（金）10:00～11:40

場 所 日事連会議室

出席者

委 員 長 村田良太

委 員 米田正彦、寺本 勉、伊藤公績、内田康博、
小倉 凡

特別出席 柏本 保（前委員長）

事 務 局 居谷、前田、三浦、鈴木

<使用資料>

資料1：景観・まちづくり活動事例集の全体校正刷り

補足資料：事例集の全体校正での主な追加・修正内容

資料2：景観・まちづくり活動事例集の印刷部数について

議 事

1. 景観・まちづくり活動事例集の校正の最終確認

○事例集の刊行に向けた全体校正刷り（資料1）の最終確認を行った。主な内容は次のとおり。

- ・表紙と裏表紙および発刊の経緯はこれまで直した内容で確認した。
- ・ページ番号は000の3ケタ表示で表してきたが、0は頭に入れないこととする。
- ・事例の一覧表の単位会名等と本文に齟齬がないよう最終チェックを行う。また、一覧表の番号が小さいのでポイントを上げることにする。
- ・寺本委員作成の神奈川会の2つの事例について、空いているス

ペースを利用して追加文を入れることとする。

- ・本文でポイントの大きさの調整が必要なものは直すこととする。
- ・「4. 景観・まちづくりの動向」について、本文の前に、章の経緯、位置づけの説明文を内田委員が作り前段に入れることとする。
- ・「5. おわりに」は、令和2・3年度の専門委員会より編集されたことを明記し、編集後記を掲載し、文末に令和4・5年度任期の専門委員会協力と入れることとした。
- ・奥付で発行日を2022年12月12日とした。
- ・委員会後、気が付いた点があれば1週間以内に事務局へ知らせることとした。

2. 景観・まちづくり活動事例集の印刷部数について

○単位会への送付部数および必要部数等について、資料2により確認した。

- ・各単位会へ20部寄贈する。
- ・単位会へ寄贈分以外に有償で必要な部数を10月に再度調査した。9単位会から追加の希望があり、寄贈分と合わせて送付する。また、執筆者個人からの追加申し込みがあり、送付する。有償は見積もりの単価を勘案し、350円＋税とする。
- ・執筆者25人に1部ずつ寄贈する（連名で執筆している方は各1部寄贈）。
- ・予備も含め、印刷部数を2,250部とする。
- ・その他、日事連ホームページで事例集を公表し閲覧可能とする予定

3. その他

○12月に事例集を発行するが、その後の委員会活動をする上で、あらためて単位会へ紹介したい景観・まちづくりの活動があれば提出してもらい、会誌「日事連」に掲載することを検討することとした。

○「建築等を通じた良好な景観形成・まちづくり推進協議会」WGの日事連からの委員については、前任の小澤委員から寺本委員へ交代し、推進協議会事務局（士会連合会）へ交代の文書を送付した。米田委員は委員を継続することを確認した。

○次回委員会は、今後開かれる推進協議会WGの開催状況等を勘

案し、その後で日程調整することとした。

■第2回会誌編集専門委員会概要

日 時 令和4年12月9日（金）15:00～17:00

場 所 日事連会議室

出席者 委員長 荻窪伸彦

副委員長 宇塚幸生

委 員 田端友康、小泉 厚、齊藤滋史、福山雅也

広報・渉外委員長 石井繁紀

オブザーバー ㈱ジェイクリエイト

城市奈那、江島千鶴

事務局 前田、三浦、鈴木

欠席者 委員 鈴鹿美穂

<配布資料>

資料1：令和5年1月号台割

資料2：令和5年2月号台割

資料3：令和5年3月号台割

資料4：特集提案－「湯」の新たな景色（宇塚副委員長）

資料5：特集提案－都市木造の可能性（小泉委員）

資料6：特集提案－土間の魅力、借景の妙技、ガラスの魅力、

ZEB建築（齊藤委員）

資料7：新設提案－大阪会活動報告（見本）（荻窪委員長）

参 考：令和4年度 年間台割表

議 事

1. 直近の会誌（11月号・12月号）の掲載内容についての意見交換

会誌の掲載内容について、各委員より感想等を述べた。

<11月号>

- ・特集は「よみがえる校舎」で全体の廃校のうち、3/4くらいが再活用されていることがグラフでみてとれた。また、そのあとのマンガミュージアム、日事連建築賞のイノベーションによる作品、最後に編集後記で現存する日本最古の木造幼稚園が紹介されていて、関連性がある連続したまとまりのある号になったと思う。

- ・天神良久東洋大学客員教授の廃校利活用の記事は、わかりやすく書かれていてよかった。

- ・事例が4件掲載されており、内容もよかった。また、ザ・ホテル青龍 京都清水の事例が一番最後になってしまっているのですが、天神良久氏記事の前に扉の続きとして事例を先に載せてもよかった。配置図と平面図がなかった物件があり、できればあったほうがよかった。事例では多用途にしたときにどのような障害があって、どのように工夫したのか、そのようなことも書いてもらった方がよいと感じた。

- ・日事連建築賞の国土交通大臣賞は、とても良い作品の記事であった。

- ・「建築士の休日」は、これまで掲載のなかったようなテーマでとても内容がよかった。

- ・「続BIMで変わる、BIMで変える」は、とてもわかりやすい内容でよかった。

- ・秋野弁護士は法律知識はいつも興味深い内容で勉強になっている。興味を引くタイトルで、タイトルも大事であると感じた。

- ・苦情解決事例紹介は解決までには至らなかったようなことだったので、事務所協会が解決に導いた対応の内容を掲載できればと思った。

<12月号>

- ・表紙の写真の写りが弱く感じて、もう少し公民館がわかりやすく描かれている写真でもよかった。また、特集とあわせて熊本の写真でもよかった。

- ・特集は、「建築士事務所全国大会（熊本大会）」で、全体の様子がわかりやすくまとめられていてとてもよかった。

- ・日事連建築賞の受賞者インタビューは、作品紹介の記事と重なってくるが、次回もインタビューを続けていければと思う。

- ・児玉会長の青年話創会での挨拶は現状の課題が問題視されていて、今後考えていかなくてはと思った。

- ・次回全国大会は鳥取・島根の共管なので、それに至った理由も書いてほしかった。

- ・大会式典前に行われた女性交流会は、鈴鹿委員の写真も写っ

ておりとても良い内容であった。

- ・日事連建築賞は上有住地区公民館で、空間のスペースの写真が良かったことと図面もわかりやすかった。

- ・編集後記は宇塚副委員長の執筆で1年の締め括りとしてとても良い内容であった

2. 令和5年1月号以降の特集企画等の確認、検討

ジェイクリエイトおよび事務局より11月号～3月号について台割案に基づき説明がなされた。

○1月号（資料1）

◇新年号にあたり、日事連会長の年頭のあいさつを冒頭で掲載する。

◇特集1は「建築と日本庭園」を掲載する。

- ・建築と日本庭園について庭園研究家の中田勝康氏（庭園研究家）にジェイクリエイトより依頼し執筆していただいている。庭と建物では作庭家の重森三玲のことがよく書かれている。

- ・建物と庭園の関係性や図面と配置図も含めて掲載したい。

- ・近現代建築の範囲まで広げて、庭園家だけでなく建築家が関与した庭園も入れたい。タイトルも「建築と日本庭園」として、建物でも魅力のあるものを探す方向で進めることとした。

- ・特集とあわせて、関連で連載「美術館・博物館巡り」の中で、島根県の足立美術館の掲載を予定する。

- ・表紙の写真は、特集に合わせ、先日の委員の投票により、長野県木曽町・興禅寺庭園「看雲庭」としている。

◇特集2として、単位会へ青年部会等の若い世代を中心に「今年の抱負」を執筆依頼し、19単位会より提出され掲載する。

◇その他の記事

- ・単位会だよりとして京都会より木造耐震診断「KMソフト」を紹介する。

- ・美術館・博物館巡りは、当初「足立美術館」を予定していたが順延し、2月号で掲載を予定していた宇塚副委員長執筆の「早稲田大学 国際文学館 村上春樹ライブラリー」を

掲載する。

- ・熊本全国大会前日に行われた青年話創会での報告を1月号よりレポートとして掲載する。令和4年度日事連建築賞の作品紹介は、「新富士のホスピス」を掲載する。

- ・編集後記は福山委員が担当し執筆している。

○2月号（資料2）

◇特集は「建築写真にフォーカス（仮）」を掲載する。

- ・企画として、「日本の建築写真史」（執筆候補：鳥原学氏）、「建築写真の今とこれから」を現役で活躍している建築写真家や写真事務所に2社にインタビューを予定する。

- ・写真の使用は著作権料がかかるため、ジェイクリエイト社で選別する予定。

- ・表紙の写真は、数枚写真をコラージュして重ねた写真でもよいと思われる。また、特集タイトルは「建築写真の昔と今」、「建築写真界」または「建築写真」とする案が出された。

- ・特集のタイトルは、鳥原学氏の執筆内容も確認しながら候補写真とタイトル案をいくつか挙げて、年明けに投票で決めることとした。

◇その他の記事

- ・建築まちづくりNEWSでインボイスの周知記事を掲載する。
- ・日事連発信として、11月に行われた「マロニエBIM設計コンペティション2022inみやぎ」を掲載する。
- ・編集後記は齊藤委員が担当し、既に原稿の提出を受けている。

○3月号（資料3）

◇特集は、2025年大阪・関西万博を掲載する。

- ・掲載は2025年の万博に向けて、2023～2025年の毎年3月号に3回に分けて特集することとする。

- ・特集のタイトルは、「2025年大阪・関西万博」とし、サブタイトルでその号の内容に因んだフレーズを入れることとする（例：EXPO'70年を振り返りながら～）。

- ・企画として、2025年大阪・関西万博の基本構想立案に携わった大阪府立大学特別教授の橋爪紳也氏に2025

年万博の概要の執筆を依頼し、掲載する。

- ・2025年万博の概要は未だそれほど万博の細かいことや建築のことを書けないと思われる。3回に分けて掲載するため、初回は1970年万博の当時の概要を先に掲載することとする。大阪会誌「まちなみ」でパビリオンの建物の設計者の一覧を掲載した記事があるので、荻窪委員長よりジェイクリエイト社へ参考に提供することとする。
- ・橋爪紳也氏には図版を多く提供してもらうよう、ジェイクリエイト社が依頼する。
- ・万博のデザインに携わる藤本壮介氏のコメントがほしいので、ジェイクリエイト社が日本国際博覧会協会へ相談することとする。

◇その他の記事

- ・美術館・博物館巡りは、岐阜会へ依頼し、中山道広重美術館を執筆してもらうこととした。
- その他、日事連建築賞受賞作品紹介（優秀賞）、隔月掲載の「続BIMで変わる、BIMで変える（神奈川会会員執筆）」等を載せる。
- ・編集後記は小泉委員が担当する。

3. 特集等の提案についての検討

○企画提案

①宇塚副委員長より、「湯」の新たな景色として企画提案がなされた。（資料4）

②小泉委員より、都市木造の可能性（高層建築）として企画提案がなされた。（資料5）

③齊藤委員より、4件の企画提案がなされた。（資料6）

☆検討の結果、4月号に「湯」の新たな景色（銭湯を除き温泉を対象、銭湯は今後検討）、5月号で都市木造の可能性（日事連建築賞で今年度優秀賞を受賞した高層一部木造のアネシス茶屋ヶ坂の作品紹介の記事の時期とあわせる）、6月号で資料6の中から「ガラスの魅力」を計画することとした。ZEB建築については、今後決めていくこととした。

○荻窪委員長より新たな企画として、単位会の活動報告につ

いて掲載していきたい旨提案がなされた。（資料7）

- ・会員は自身が知っている内容の記事はよく読まれるので、その観点から単位会で活動している内容を毎月いくつかの単位会より原稿をもらい紹介したい。
 - ・この提案を検討し、1頁4単位会を掲載することとした。
 - ・今後単位会へ依頼するうえで見本があるほうがよいので、最初の掲載は委員所属の単位会から始めることとする。以下の委員により記事を作成してもらうこととした。
- 荻窪委員長（大阪会）、宇塚副委員長・鈴鹿委員（東京会）、齊藤委員（静岡会）、福山委員（広島会）

4. その他

次回委員会：令和5年2月9日（木）14:00～16:00

■第3回 熊本大会運営特別委員会 議事概要

日時 令和4年11月11日（金）10:05～10:45

場所 日事連会議室

出席者 委員長 岩本茂美

副委員長 南 孝雄

委員 渡邊 武、本澤 崇、井手添誠、田中之博

オブザーバー 前原 博、小林 至

事務局 居谷、前田、伊東、三浦、松谷

欠席者 委員 笠間富雄

協議事項

（1）第44回建築士事務所全国大会（熊本大会）事業報告・収支報告について

南副委員長より、資料1-1によって、第44回建築士事務所全国大会（熊本大会）の実施報告及び収支報告等について、以下のとおり概要説明がなされた。

式典には、単位会会員1,063名、知事等招待者79名、合計1,142名の参加があった。

収支は、予算額3,360万円に対し決算額3,341万円余と、ほぼ予算通りであった。

続いて、参考1によって、令和3年度熊本大会中止に伴う精算明細及び地方開催の全国大会収支分析について、参考2

によって、大会式典及び記念パーティのタイムスケジュールと結果について説明がなされた。

式典では、建築賞受賞者インタビュー及び来賓祝辞等が予定時間より超過し、終了時刻が25分程度遅れたため、記念パーティの歓談時間を短くする等時間調整した。

また、岩本委員長より、資料1-2の熊本会による「第44回建築士事務所全国大会（熊本大会）を終えて」については、内容を精査後各委員へ改めて送付したい旨発言がなされた。

(2) 青年話創会2022熊本大会事業報告・収支報告について
南副委員長より、資料2によって、青年話創会2022熊本大会の実施報告及び収支報告等について、以下のとおり概要説明がなされた。

参加者152名（資料2では151名だったため修正、うちオブザーバー25名）により、「つながる建築、つなぐ人へブロック青年部会の構築、その先へ～」をテーマに、青年部等を立ち上げている単位会の活動状況報告及びテーブル討論を実施し、引き続き懇親会を行った。

後日、テーブル討論等の報告も含め、より詳細にまとめた報告書を作成し、理事会へ報告する予定である。

収支は、予算額150万円に対し決算額171万円余と予算を超過したが、これは当初見込んでいなかった写真撮影や襷の作成等を追加したためである。オブザーバー参加費を除いた

9万円余の超過分は、日事連の全国大会経費で負担する。

協議の結果、資料1-1の第44回建築士事務所全国大会（熊本大会）実施報告書及び資料2の青年話創会2022熊本大会の実施報告書について了承した。

最後に、岩本委員長より次の発言があった。

福岡会及び熊本会の共同企画により開催された女性交流会2022熊本大会は、今後も活動する方向になっていくと思うが、日事連負担がこれ以上増えることのない様、開催方法等について策を練る必要がある。

(配付資料)

第2回熊本大会運営特別委員会議事概要

資料1-1 第44回建築士事務所全国大会（熊本大会）実施報告書（案）

資料1-2 第44回建築士事務所全国大会（熊本大会）を終えて

参考1 令和3年度熊本大会中止に伴う精算明細、地方開催の全国大会収支分析及び支出の部内訳

参考2 熊本大会式典及び記念パーティタイムスケジュール比較表

資料2 青年話創会2022熊本大会実施報告書（案）

■主な行事予定

令和5年

1月	18日	青年部会連絡会議 業務報酬基準WG BIM GATE編集委員会
1月	19日	法制度対応特別委員会 既存住宅状況調査専門委員会
	24日	正副会長会 常任理事会
	31日	指導運営委員会
2月	1日	業務開発専門委員会
	3日	教育・情報委員会
	9日	会誌編集専門委員会
	13日	会員サービス検討WG

令和4年12月末 会員・構成員異動報告等

1. 期 間 令和4年12月1日～12月31日
 2. 会 員 在 籍 正会員 47団体 構成員 14,442事務所
 賛助会員 5社

単位会	構成員		建築士事務所登録		賠償責任保険		
	増 減	在籍数(A)	登録数(B)	加入率(A/B)	増 減	加入数(C)	加入率(C/A)
北海道	△ 8	998	4,216	23.7 %		295	29.6 %
青 森		165	902	18.3 %		43	26.1 %
岩 手	+ 2	269	921	29.2 %		74	27.5 %
宮 城	△ 1	331	1,865	17.7 %	+ 1	85	25.7 %
秋 田		142	1,016	14.0 %		48	33.8 %
山 形		203	1,084	18.7 %		59	29.1 %
福 島		236	1,467	16.1 %		68	28.8 %
茨 城		434	1,875	23.1 %	△ 2	152	35.0 %
栃 木		159	1,293	12.3 %		77	48.4 %
群 馬		186	1,649	11.3 %		87	46.8 %
埼 玉	+ 2	450	4,538	9.9 %		138	30.7 %
千 葉		343	3,276	10.5 %	+ 1	111	32.4 %
東 京	+ 6	1,618	14,649	11.0 %	△ 2	612	37.8 %
神奈川		743	5,834	12.7 %		223	30.0 %
新 潟	+ 2	310	2,182	14.2 %		135	43.5 %
長 野		387	2,027	19.1 %		106	27.4 %
山 梨	△ 1	105	799	13.1 %		15	14.3 %
富 山	+ 2	297	1,127	26.4 %		66	22.2 %
石 川		311	1,245	25.0 %		64	20.6 %
福 井		206	938	22.0 %		55	26.7 %
岐 阜		118	1,512	7.8 %	+ 1	20	16.9 %
静 岡		385	3,002	12.8 %		127	33.0 %
愛 知	+ 1	510	4,953	10.3 %	△ 2	135	26.5 %
三 重		184	1,174	15.7 %	+ 1	65	35.3 %
滋 賀	+ 1	184	1,096	16.8 %	+ 1	41	22.3 %
京 都		372	2,163	17.2 %	△ 1	107	28.8 %
大 阪		797	6,291	12.7 %	△ 1	238	29.9 %
兵 庫		354	3,511	10.1 %		99	28.0 %
奈 良	△ 2	104	880	11.8 %		26	25.0 %
和歌山		115	714	16.1 %		23	20.0 %
鳥 取		118	477	24.7 %		55	46.6 %
島 根	+ 1	111	606	18.3 %		52	46.8 %
岡 山	△ 2	370	1,413	26.2 %		72	19.5 %
広 島		343	2,244	15.3 %	+ 1	151	44.0 %
山 口		105	990	10.6 %		39	37.1 %
徳 島		111	810	13.7 %	+ 1	19	17.1 %
香 川		87	1,011	8.6 %		20	23.0 %
愛 媛		183	1,167	15.7 %		47	25.7 %
高 知		139	639	21.8 %	+ 1	37	26.6 %
福 岡		470	3,341	14.1 %	+ 1	175	37.2 %
佐 賀		180	586	30.7 %		47	26.1 %
長 崎		240	738	32.5 %		44	18.3 %
熊 本		233	1,388	16.8 %		98	42.1 %
大 分		156	829	18.8 %		46	29.5 %
宮 崎		113	1,037	10.9 %		47	41.6 %
鹿児島		289	1,146	25.2 %	+ 2	86	29.8 %
沖 縄		178	1,300	13.7 %		67	37.6 %
計	+ 3	14,442	97,921	14.7 %	+ 3	4,496	31.1 %

※建築士事務所登録数(B)は令和4年4月1日時点の数字である。